

4

Rd.

AUG 2015

平成27年8月30日発行
第6巻106号

RACING PRESS

apan

**SUPER GT ROUND4
FUJI**



Super GT
Series 2015

GT

Round 4
FUJI

8/8-9



tetsu



Text

島村元子

Editor

吉川絹恵

Photo

鉄谷康博

中村佳史

北川正明

Cover Photo

中村佳史

スーパーGT第4戦は富士スピードウェイで開催、8月の厳しい暑さという過酷なコンディションの中、今年2度目の戦いとなった。GT500/300共にGT-Rの強さが際立っているが、ウエイトハンデが重く厳しい戦いとなり、今季入賞のない24号車に注目が集まった。しかしホームコースだけにレクサス陣営は得意のコースで必勝態勢。一方タイで苦戦したホンダ陣営は後半戦につながるレースを見せたいところでもある。

D'station ADVAN GT-R、鮮やかな逆転勝利!

今シーズンのSUPER GT第4戦は今季2度目の戦いとなる富士スピードウェイが舞台。夏休み真っ只中のサーキットには多くのレースファンが来場し、バトルの行方を見守った。レース終盤、予選6番手スタートのNo.24 D'station ADVAN GT-R (佐々木大樹/ミハエル・クルム組) が勢いに乗ってポジションアップに成功。最後の最後まで果敢な攻めが結実し、今季初優勝を達成。KONDO Racingとして5年ぶりの美酒に酔うこととなった。

予選では前回同様にNo.38 ZENT CERUMO RC Fの立川祐路が最速タイムをマーク、またも自身のポールポジション獲得最多記録を更新する。これに公式テストを経て大きな躍進を見せたNo. 8 ARTA NSX CONCEPT-GT (松浦孝亮/野尻智紀組) が続き、3番手はNo.36 PETRONAS TOM'S RC F (伊藤大輔/ジェームス・ロシター組) となった。



薄曇りだった予選に対し、決勝は強い日差しが照りつけるコンディション。タイヤマネジメントの影響が出たのか上位陣はペースが思うように伸びず、ルーティンワーク後にポジション変動が見えはじめた。その中で勢いづいたのが24号車。依然38号車がトップをキープしていたが、終盤にドライブを担当した24号車の佐々木がぐんぐんペースアップ。ライバルとのバトルを次々と制し、ついに38号車石浦を残り5周となったメインストレートで逆転！ 最終的に2位との差を5秒近くつけた佐々木が自身初となるGT500初優勝のチェッカーを受けることに成功した。2位の38号車に続いたのは、No.12 カルソニックIMPUL GT-R(安田裕信/ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ組)。こちらも終盤の激走が奏功している。



GT500決勝結果

1位	No.24	D'station ADVAN GT-R	佐々木大樹/ミハエル・クルム	66周
2位	No.38	ZENT CERUMO RC F	立川祐路/石浦宏明	66周
3位	No.12	カルソニック IMPUL GT-R	安田裕信/J.P.デ・オリベイラ	66周
4位	No.1	MOTUL AUTECH GT-R	松田次生/ロニー・クインタレッリ	66周
5位	No.100	RAYBRIG NSX CONCEPT-GT	山本尚貴/伊沢拓也	66周
6位	No.15	ドラゴ モデューロ NSX CONCEPT-GT	小暮卓史/オリバー・ターベイ	66周
7位	No.36	PETRONAS TOM'S RC F	伊藤大輔/ジェームス・ロシター	66周
8位	No.17	KEIHIN NSX CONCEPT-GT	塚越広大/武藤英紀	66周
9位	No.39	DENSO KOBELCO SARD RC F	平手晃平/ハイキ・コバイネン	66周
10位	No.19	WedsSport ADVAN RC F	脇阪寿一/関口雄飛	66周
11位	No.64	Epson NSX CONCEPT-GT	中嶋大祐/ベルトラン・バゲット	66周
12位	No.37	KeePer TOM'S RC F	A.カルダレッリ/平川 亮	66周
13位	No.6	ENEOS SUSTINA RC F	大嶋和也/国本雄資	65周
14位	No.46	S Road MOLA GT-R	本山 哲/柳田真孝	65周
	No.8	ARTA NSX CONCEPT-GT	松浦孝亮/野尻智紀	44周



ARTA CR-Z GTがポール・ツー・ウインの激走!



GT300クラスの決勝は予選でハンディウェイトを物ともせず、No.55 ARTA CR-Z GTの高木真一が激走。立川同様、高木もGT300クラスのポールポジション獲得記録を更新した。決勝でもこの流れは変わらず。チームは必勝体制を敷き、ドライバーにクールスーツを外すという厳しい条件を突きつけたと言うが、高木と小林崇志のふたりが奮闘。盤石の走りにライバルも歯が立たず。終始安定したレース運びを実現、今季初優勝を果たすこととなった。



GT300決勝結果

1位	No.55	ARTA CR-Z GT	高木 真一/小林 崇志	61周
2位	No.65	LEON SLS	黒澤 治樹/蒲生 尚弥	61周
3位	No.11	GAINER TANAX SLS	平中 克幸/ビヨン・ビルドハイム	61周
4位	No.51	JMS LMcorsa Z4	新田 守男/ 脇阪 薫一	61周
5位	No.25	VivaC 86 MC	土屋 武士/松井 孝允	61周
6位	No.10	GAINER TANAX GT-R	アンドレ・クート/千代 勝正	61周
7位	No.88	マネバ ランボルギーニ GT3	織戸 学/佐藤 公哉	60周
8位	No.61	SUBARU BRZ R&D SPORT	井口 卓人/山内 英輝	60周
9位	No.31	TOYOTA PRIUS apr GT	嵯峨 宏紀/ 中山 雄一	60周
10位	No.22	グリーンテック SLS AMG GT3	和田 久/城内 政樹	60周
11位	No.87	クリスタルクロコ ランボルギーニ GT3	青木 孝行/山西 康司	59周
12位	No.77	ケースフロンティア Direction 458	峰尾 恭輔/飯田 太陽	59周
13位	No.111	Rn-SPORTS GAINER SLS	植田 正幸/鶴田 和弥	59周
14位	No.48	DIJON Racing GT-R	高森 博士/田中 勝輝	59周
15位	No.60	SYNTIUM LMcorsa RCF GT3	飯田 章/吉本 大樹	59周
16位	No.9	PACIFIC マクラーレンwithu's	白坂 卓也/坂口 良平	59周
17位	No.30	NetMove GT-R	小泉 洋史/岩崎 祐貴	59周
18位	No.0	グッドスマイル 初音ミク SLS	谷口 信輝/片岡 龍也	59周
19位	No.47	DIJON Racing GT-R	湯澤 翔平/柴田 優作	56周
20位	No.21	Audi R8 LMS ultra	リチャード・ライアン/藤井 誠暢	55周
21位	No.360	RUNUP Group&DOES GT-R	吉田 広樹/田中 篤	54周
22位	No.2	シンティアム・アップル・ロータス	高橋 一穂/加藤 寛規	53周
	No.33	Excellence Porsche	インペラトリー/山下 健太	41周
	No.18	UPGARAGE BANDOH 86	中山 友貴/井出 有治	41周
	No.7	Studie BMW Z4	ヨルグ・ミュラー/荒 聖治	37周
	No.50	SKT EXE SLS	加納 政樹/N.インドラ・バユーン	
	No.5	マッハ車検 with いらこん 86c-west	玉中 哲二/密山 祥吾	9周
	No.86	Racing Tech Audi R8	クリスチャン・マメロウ/細川 慎弥	7周
	No.3	B-MAX NDDP GT-R	星野 一樹/高星 明誠	1周

POLE POSITION



No.38 ZENT CERUMO RC F

Text : Motoko Shimamura Photo : Masaaki Kitagawa

前回タイ戦でポールポジションを獲得、アタックを務めた立川祐路は自身のもつGT500クラス通算最多ポールポジション獲得数を「20」へと伸ばすことになった。だが、本番の決勝レースでは、終盤にメカカルトラブルが発生。リタイヤの悔しさを味わった。それからおよそ1ヶ月半。今シーズン2度目の舞台となる富士スピードウェイは、レクサス勢のホームコース。その中で再び立川が最速タイムをマーク、ベテランの存在感をしかと見せつけた。

